

十三 速記学校設立

昭和四年、いよいよ東京に速記学校をつくることになったのです。九段下のビルでタイピストの養成をしていた人がその室を空けたので、私がお金を借りて速記学校を開くことになったのです。しかし残念ながら資金がないので、机や椅子など整えることができなかったのです。それで私は伊藤源三郎叔父さんを訪ねて行つたのです。それはお金を貸してもらおうと思つて行つたのです。そして事情を話し、二百五十円貸していただけないでしょうかとお願いしたのでした。

ところが叔父さんは何と返事されたと思われましょうか、叔父さんは「貸さない！」といわれたのでした。しかし暫くじつとしてみると「貸さない、あげる！」といわれたのでびっくりしたのでした。当時の二百五十円といえば相当な大金だったので「貸さないであげる！」といわれたのでした。私はこうして叔父さんに助けられて学校を始めることができたのでした。誠にありがたいことで叔父さんは私の大恩人でした。

その翌々年、昭和六年から全国中等学校中根式速記競技大会を開いたのですが、第二回目ぐらいからでしたか、叔父さんに来ていただいて開会の辞を述べていただき、また優勝旗を叔父さんから渡していた